アンモンのたみ

だい26しょう

モーサヤのむすこたちは，レーマン人にふくいんを教えました。それによってたくさんのレーマン人が，くいあらためて教会に入りました。（アルマ23：4−5）

教会に入ったこのレーマン人たちは，自分たちのことをアンタイ・ニーファイ・リーハイ人，またはアンモンのたみとよびました。このたみは，とてもぜんりょうできんべんなたみとなりました。（アルマ23：17−18；27：26）

心をあらためなかったレーマン人たちは，アンモンのたみをいかり，かれらとたたかうよういをしました。（アルマ24：1−2）

アンモンのたみは，わるいレーマン人たちがおそって来ることを知りましたが，はんげきしないことにしました。かれらは，人をころしたことをこうかいしていたのです。（アルマ24：5−6）

かれらは，ぶきを地中ふかくうめて，にどと人をころさないと神にやくそくしました。（アルマ24：17−18）

わるいレーマン人がせめて来て，アンモンのたみをころしはじめると，人びとは，ひざまずいていのりました。（アルマ24：21）

アンモンのたみがたたかわないのを見て，たくさんのわるいレーマン人はころすのをやめました。（アルマ24：23−24）

レーマン人はアンモンのたみをころしたことをこうかいしました。かれらは，ぶきをなげすてて，アンモンのたみにくわわり，ふたたびたたかおうとはしませんでした。（アルマ24：24−27）

その後も，さらに多くのわるいレーマン人が，アンモンのたみをほろぼしにやって来ました。それでもアンモンのたみは，たたかおうとせず，多くの人がころされました。（アルマ27：2−3）

アンモンは，あいする人びとがこれいじょうころされるのにたえられず，主にたすけをねがいもとめました。すると主は，たみをつれてこの地を出るように言われました。（アルマ27：4−5，10−12）

ゼラヘムラのニーファイ人は，アンモンとそのたみにジェルションの地をあたえました。そしてかれらをまもり，かれらの友となりました。（アルマ27：22−23）